



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
能登

農業の持つ教育力



六星同窓会
会長
大藏捷直

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日ごろより母校の発展並びに同窓会活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り心より

お礼申し上げます。
母校が一昨年、創立百四十周年の節目を迎え、多くの皆様から多大なご支援とご協力をいただき、様々な記念行事が滞りなく行われ、その歴

四十三年ぶりの日本一に寄せて



校長
稲葉幹雄

同窓生の皆様方には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動につきまして、物心両面にわたりご支援賜りまして、衷心より御礼申し上げます。さらには、昨年度は創立百四十周年にあたり、皆様方のご尽力により、記念式典をはじめとする様々な事業が善く行われました。

とを、ご報告させていただきます。
さて、本年度は皆様方に是非ともお伝えしたいお知らせがございます。去る十月に岡山県で行われた第六十八回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会におきまして、本校の食品科学研究会が、石川県勢としては四十三年ぶりの日本一を獲得いたしました。ご存知の方

史と伝統の重みを痛感いたしました。同時に農業の持つ役割や多面的機能と併せて農業の持つ教育力についても改めて考えさせられた機会でもありました。

農業・農村は、食料の安定的な供給という役割だけでなく、その生産活動を通じ、洪水防止等自然災害から暮らしを守る国土の保全、水資源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承、癒やしや安らぎをもたらす場、体験学習の場など多面的機能を持っています。その機能を維持し、さらに高めていくことがこれまで以上に求められています。

このような役割と多面的機能を持つている農村・農業に直接あるいは間接的に関わるることによって自然を大切に育む心が育まれ、自然との共生の大切さを理解することや思いやりの心が身につく、生命あるものへの畏敬の念が育ちます。また、生

産することの大変さや喜びを体感し理解ができ、食に対する適切な思考力や判断力が身につく、心身の健康を育くみ、郷土を理解し愛する心が育ち、人間関係を豊かにするなど多くの力を育むことができる。これらが農業の持つ教育力である。

こうした教育力を同窓生の多くの皆さんが在学中はもとより卒業後の生活の中で、ひしひしと感じたことがあったのではないかと思います。小学校をはじめ中学校や幼稚園・保育園でも農業体験学習が取り入れられています。その目的は農業の理解を深め、関心を高めるだけでなく農業の持つ教育力の効果をねらっているものである。

私がまだ若いころ、農業に関する「ことわざ」を調べていたとき、「下農は草を作り、中農は米を作り、上農は土を作り、上々農は人をつくる」という「ことわざ」に出会いました。農業のもつ教育力が末尾の表現に凝

ます。

日本一の高さを誇る富士山の威容も、重厚な裾野によって成り立っています。今回の日本一の栄冠も、一四一年にわたり脈々と受け継がれてきた日本一、二を誇る本校の歴史や伝統、それを繋いでこられた同窓生の方々のご努力、そして久しく母校を思うお気持ち、発展への願い、それらが支えとなつて四十三年ぶりの快挙を成し遂げることができたのだと思います。

私自身は本年度着任したばかりではありますが、実を申しますと、父親が本校を昭和十七年に卒業しています。父は、私の本校着任を待つたかのように五月に他界いたしました。近年は脳梗塞を患い、話しかけても反応がないような状態が続いて

縮されているのではないかと考えたことが思い出されます。永年、農業教育に携わってきましたが、「農業のもつ教育力」をこれからも心の片隅に置きながら、今しばらく農業教育に関わっていきたくと思っています。

最後になりますが、この三月、卒業された皆さんの六星同窓会へのご入会を心から歓迎し、前途洋々たる皆さんの今後のご活躍をお祈りするとともに、母校翠星高校のますますの発展と同窓会会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

いました。ところが、本校への着任を告げた時だけは、全身を震わせ必死で私に何かを伝えようとしていました。本校を卒業したことを生涯の誇りにしていた父に、一度きりの親孝行ができたのではないかと思っております。

本年度、本部同窓会をはじめ多くの同窓会のお招きを受け出席させていただきました。生前、父親とは十分に話をすることができなかつたという悔いがあり、各会場で皆様方とお話させていただくと、その失われた時間を回復するかのような思いになります。再び皆様方にお会いできることを心から楽しみにしております。

第68回日本学校農業クラブ全国大会
平成29年度岡山大会プロジェクト発表会
分野Ⅱ類「開墾・保全・創造」最優秀賞(文部科学大臣賞)

継続は力なり 廃棄果皮ゼロ宣言! 丸ごと生かそう「金沢ゆず」

石川県立翠星高等学校総合グリーン科学科
食品科学コース食品科学研究会

- 3年 上田梨々花(プロジェクト代表者発表者)
- 1年 太田 風音(発表者)
- 3年 織田菜々子(補助者)
- 3年 山谷 花恋(補助者)
- 3年 米谷莉乃亜(補助者)
- 1年 木戸 彩耶(補助者)
- 3年 金子 愛
- 3年 南 亜珠花
- 2年 出口 郁
- 1年 福村 月菜



◎食品科学研究会 近年の表彰
第67回日本学校農業クラブ全国大会
平成28年度大阪大会プロジェクト発表会
分野Ⅱ類「開発・保全・創造」優秀賞・分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」優秀賞

第66回日本学校農業クラブ全国大会
平成27年度群馬大会プロジェクト発表会
区分「食料・生産」最優秀賞・全国大会出場

平成26年度 日本学校農業クラブ北信越プロジェクト大会プロジェクト発表会
区分「食料・生産」最優秀賞・全国大会出場



食品科学研究会

「43年ぶりの日本」

教諭 安川 三和

(平成11年松任農業高校園芸科学科卒)

「夢は全国最優秀!」を合言葉に挑み続けて5年。遂に今年、農業クラブ全国大会(岡山大会)プロジェクト発表会分野Ⅱ類において念願の最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。石川県がプロジェクト発表で最優秀を受賞したのは、本校が松任農業時代の昭和48年と49年でした。実に石川県内43年ぶりの受賞となりました。

食品科学研究会は、本校に5つ設立されている農業クラブ活動を行う研究会のひとつです。放課後や土日を使って、白山米粉の普及や規格外白山トマトの活用、ののいち健康野菜ヤーコンの加工品開発、加賀丸いものスイーツ化など、様々な地域農業の課題に挑戦してきました。平成24年には、食品科学研究会内に模擬株式会社 SUISEI FACTORY を設立し、6次産業化コンサルタント事業にも挑戦してきました。

プロジェクト発表は、「研究内容」活動記録簿「10分間の発表」「質問への解答」で得点を競い合います。平成25年に前任者より食品科学研究会を引き継ぎ、競技のノウハウがほとんど無い中、歴代の生徒と共に試行錯誤を繰り返し、一歩ずつ歩みを進めてきました。今年プロジェクトの中心となった3年生は、1年次、2年次と2年連続優秀賞の受賞に留まったため、「最後の年に最優秀賞を!」という想いが強かったと思います。私自身もチャンスの年と思い、研究会活動に没頭しました。特に今年注力したのは、チームワークです。研究会活動を進める上で、大小様々な壁にぶつかります。そんな時は常に部員10名全員で話し合い、解決の道を探りました。解決困難と思われたことも、話し合いの中で解決法が見えた事が何度もあり、私自身チームワークの力を再確認で

きました。

夏休みを費やして全員で仕上げた「活動記録簿」は482ページにも及び、5月から大会前日10月23日まで質を高めるために練習し続けた「発表」は、練習でも過去最高の出来となりました。万全を期して6名で挑んだ全国大会。ところが、岡山県へ向けた出発当日は台風の影響で電車が不通...、急遽米原駅まで本校の恩師であり先輩でもある先生に送って頂きました。さらに、前日の発表リハーサルでパソコンが投影されないなどトラブル続き。それでも生徒達の心は折れることなく、本番では一致団結したノーマスの発表を行ってくれました。

本校生徒達は、今回の受賞を通して「地道な努力は必ず実を結ぶ」ということを学んだと思います。このことを糧としてこれからの人生を乗り切るものとして欲しいと思います。また、本校141年の長い歴史を受け継ぐ者としての誇りを新たに、今後とも生徒たちと共に「食」・「農」の大切さを伝え広める活動を行っていきたくと思います。本校に関わる皆様のご支援・ご鞭撻をよろしくお願いします。



「六星賞を受賞して」

上田 梨々花

(食品科学研究会副部長)

プロジェクトリーダー・代表発表者

3年間プロジェクト活動を行ってきたと思うのは、1年生の頃「プロジェクトをやってみないか」という先生の誘いを断らなくて良かったということですね。

1年生から2年生にかけては「野々市市産ヤーコン」についての研究活動をしていました。そこでは何もなかったところから記録簿を作る大変さや誰にでも分かりやすい説明文の作り方、基本の実験法などを学びました。1つ上の先輩と読み練習を重ねて臨んだ全国大会は、2年連続優秀賞でした。

3年生では「金沢ゆず」についての研究活動を行いました。また1からの記録簿づくりでしたが2年間行ってきたことが身に付いていたからか、1年生のころよりもクオリティが高く時間的にも余裕を持って仕上げることができました。今回の大会は自分が最上級生で代表者ということもあり緊張でいっぱいでしたが、一緒に頑張ってきたメンバーと今までで一番良い発表で「最優秀賞」を獲得することができてほんとに嬉しかったです。3年間のプロジェクト活動を通して、地域とつながることの大切さを知ることができたし、何事にも全力で取り組めば辛くても楽しめること知りました。楽しいこと以外に辛いこともあったけど、充実した高校生活になったので諦めなくて良かったと思います。

高校生活で学んだことや身につけたスキルを使って今後の社会人生活も頑張っていきたいと思います。



常設売場「いわうちマルシェ」より頂いたお祝いの花

織田 菜々子

〔食品科学研究会部長・発表補助者パソコン1〕
「六星賞」という素晴らしい賞がいただけるだけでもうれしいです。日々、研究会部長として頑張れたのは、指導して下さった先生方、副部長をはじめ部員の皆、いつも応援してくれた先輩、友達や話をきいてくれた他の部の部長のおかげです。

食品科学研究会は、私が入部する前から農業クラブ全国大会に出場していました。1年生の時、県連大会を勝ち抜いて北信越大会に出場しましたが、全国大会には出場できずすごく悔しい思いをしました。その時から、「全国大会に行きたい!!」という気持ちが強くなり、2年生の時、見事全国大会に出場し加賀丸いもの研究で優秀賞を受賞しました。そして次は、「全国大会で最優秀賞を受賞したい!!」と強く思いました。3年生になり、全国大会に向け練習を始めました。県連大会・北信越ブロック大会と勝ち抜き、全国大会に出場しました。全国大会のリハーサルでは、ハプニングの連続でしたが、本番はミス無く終わることができました。式典会場での結果発表の時、ドキドキが止まりませんでした。そして、私たちが最優秀賞と発表された時はスゴク鳥肌が立ったことを今でも覚えています。

今後は専門学校に進学し、調理師免許を取り、調理師専門学校の講師か給食の調理員になりたいです。研究会に入部したことで、人に教える楽しさや難しさ、人と関わる事の楽しさを学ぶことができました。このことを生かせるように、進学先や就職先で頑張りたいと思います。



集合写真

地域の農地を守る

平成五年度卒 園芸科 小林 孝志



同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
旧松任農業高校・園芸科を平成六年に卒業し、大学進学、金沢市農業センターでの研修期間を経て、両親の営む專業農家へと就農しました。農業者になりましたや一八年が経ち時の流れを懐かしく振り返っております。

金沢市北部の八田町を中心に水稲約四二畝、河北潟干拓地ではスイカとプロッコリ等を栽培しております。今年度からは育苗ハウスの冬期利用としてエアリーフローラの栽培にも取り組んでおります。今年度、農業クラブ全国大会での「金沢みず」を題材に取り組んだプロジェクト発表。新聞やニュースで在校生の活躍・健闘を知り、嬉しく思っております。先生方や地域の方々への指導を頂き、仲間同士で取り組めたことは良い思い出となり、自分の財産になる事と思っております。

当時の自分達は「プロッコリ」を題材としたプロジェクトに取り組んでいました。栽培密度や施肥設計、二株寄植えや品種の選択など。実践に活用できる内容で、現在の営農の礎になっている事は間違いありません。当時の仲間が集まった時には、酒の肴に昔の思い出話をして盛り上がる事もしばしば。『百姓』とは農作業をするだけに留まらず、様々な能力を身に付け、様々な出来事に対応できてこそ「人前」だと考えております。

これからの農業は、世界的な社会情勢や人口の変化、過酷な自然環境の影響をうけるなど、農業を取り囲む状況は大きく変化していく事でしょう。そんな時代に柔軟に対応できるように、更にスキルを上げながらも「地域の農地を守る事」を第一に、農業に取り組んでいきたいと考えております。

現在の菓子業界について

平成八年度卒 食品科学科 松浦 大器

同窓会皆様日頃の御厚情に厚く御礼申し上げます。私は(株)大松庵という和菓子屋の二代目として現在働いております。現在の和菓子業界について簡単に報告させていただきます。石川県は和菓子処で、たくさん和菓子屋がありますが近年廃業される方も多く、そのほとんどが後継者不足による所が多いようです。菓子組合でも後継者や若手の育成に力を入れています。またインターネットの普及により地方や駅前などの一等地でなくとも全国に販売可能となった事で売り上げを伸ばしている和菓子店もあり、SNSなどの口コミなども多くの宣伝効果があるようです。

私の会社は現在白山市本店、金沢兼六園店、松任郵便局店三店舗に加え、ネットショップを運営しております。北陸新幹線の影響もあり、金沢兼六園店では観光客も増え、好調に進んでおりますが、「地域から全国へ」このためには地産地消をベースに地域のお客様が喜んでいただける物作りこそが地方から全国へ繋がるかと考えており、地元企業や地元農業業者とコラボしての新商品など新しい取り組みにも挑戦しております。

時代が進んでも物作りをするのは人であり、和菓子製造技術だけではなく安心安全でお客様に喜んでいただけるような職人を育てていかなければならないと思います。私は幸運にも、母校翠星高校からデュアルシステムやインターシップの受け入れなどで、現役高校生と触れ合う機会をいただいております。今後の育成の勉強をさせていただいております。

前後になります
が同窓会皆様の更なる躍進を祈念申し上げます。



卒業してから得た経験

平成五年度卒 農業土木科 岸 貴幸

私が松任農業高校農業土木科を卒業したのが平成五年度であり、その年から白山市役所に勤めて早いもので今年で二十四年の月日が経ちました。市役所に入庁したのは土木技術職としての採用のため、携わる仕事は形として残るものが多く、これまで多くの建設事業に携わることができました。わが母校と白山警察署の間にある市道整備事業や、災害の多かった二級河川の整備事業、海側幹線への幹線市道の四車線化事業、そして新幹線開通に合わせた鉄道アンダーパス事業など、多くの主要建設事業に関わることができました。今でも手がけた事業の付近を通ると、その当時に頑張った事や苦労した事などが思い浮かんできます。色々な経験を通し大きく成長しましたが、これからも学ぶ姿勢を忘れず、少しでも社会に還元できればと考えております。

また縁があつて、母校翠星高校の野球部コーチを平成二十六年よりさせて頂いており、今年で四年目になりました。私が在学していた四年前とは学校の風景は全く変わりましたが、校舎の造りは当時のままで懐かしさを感じる中員と向き合っております。入学時には小さく感じる生徒たちが、たった二年半で心も体も大きく成長していく姿を目の当たりにすると、人の成長の凄さを感じ自分自身にも大きなエネルギーとなつております。日々苦労しながら努力した生徒たちが、夏の大会に勝利し母校の校歌が流れた時は感無量でした。応援にきた全校生徒だけでなく、OBの方々を含めた球場全体が一体となつていたことを非常に感動したことを覚えております。

最後になりましたが、翠星高校並びに六星同窓会の益々の発展をお祈り申し上げます。



支部だより

関東支部

昭和三十二年度卒

小林 好晴

平成二十九年年度支部総会を、十一月十一日(土)に本校から稲葉校長先生と長瀬先生をお迎えして、主婦会館プラザエフで開催しました。

事業活動は、年頭に「気軽に一杯の会」を行い、春は目黒川での観桜会、秋には成田山参詣を実施しています。また、石川県と石川県人会共催の「いしかわ百万石の集い」と北國新聞社と石川県人会共催の「いしかわ県人祭」にも参加協力しました。今年度も同様の活動を行うことにしています。

規約の改正では、新たに「会友」制度を設けました。高齢化等で退会された諸先輩の消息を共有するためです。嬉しいことに名簿整理中に「会員」として再登録された方が数名出て来てくれました。総会後の懇親会では競って昔話を話され、感動を受けました。

次回の総会を目指して会員の皆様と頑張つて参ります。



関西支部

昭和二十九年年度卒

北本 幸雄

平成二十九年年度六星会関西支部の総会を、十月二十一日(土)、北区梅田ホテルグランヴィア大阪「なにわ食彩しずく」で、十三時三十分から母校より稲葉校長先生と、若い先生の御参加をいただき、開催することが出来ました。司会の松永副支部長の進行により私のつたない挨拶の後、校長先生の御祝いの言葉を戴き、母校の近況などをお話しされました。

次に今年度の総会の議案についての審議に入り、質疑応答ののち承認をいただき可決しました。そして懇親会に、両先生方の母校の後輩達の学習、実習、実技そしてスポーツ等々の活躍をお聞かせいただき、我々も頑張ろうと感じ入りました。次の総会は節目の三十年です。それを目指して会員の皆様と共に進んで参ります。

東海支部

昭和三十七年度卒

猿渡 孝之

六星同窓会東海支部はさる五月二十七日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋にて、来賓三名会員十二名の参加にて、十一時より開催いたしました。

来賓として石川県人会会長上野健様、石川県立翠星高等学校校長稲葉幹雄様、事務局長寺田修一様のご出席を頂きました。総会は江川久会長の挨拶の後、石

川県人会会長の上野様より、総会を七月二十二日(日)中日パレスで開催しますので全員の出席を待っています。又校長の稲葉様より母校の現況報告、又事務局長の寺田様より母校の百四十周年にあたり校旗を寄贈したとの報告、次に山本幹事より過年度の事業、決算、次年度の事業計画の議案の提案について審議し、質疑応答の後承認可決致しました。次に年長の林様より乾杯の音頭で、支部の益々の発展と皆様の健康を祈念し、懇親会に入り、母校の情

報、会員の皆様の情報交換など活発な総会となりました。母校からいただいたパンフレットを見て学生達の様々な活動が記してあり、ほほえましさで活発さが目に浮かびます。我々も負けずと思いますが、年には勝てず、寂しい限りです。学生達に負けない様支部の発展を図りたいものです。

来年も全員の出席を目指し、約束して参会しました。



金沢支部

昭和四十七年度卒

窪 正之

金沢支部定期総会は例年七月第一土曜日に開催されている、平成二十九年七月一日に出席者三〇名で行われ、母校より稲葉学校長と六

星同窓会事務局をお世話されている寺田教諭と寺瀬、丹保両講師のご臨席を賜り、三四名にて金沢駅東口にある「ホテル金沢」に於いて十七時より開催されました。

開会にあたり大蔵捷直六星同窓会会長兼金沢支部長のご挨拶を頂き稲葉学校長より祝辞を賜り、母校の現況報告を頂きました。

次に稲本勝彦副幹事長より過年度の事業及び決算報告があり、高木伸也監事の監査報告が行われ、それぞれ満場一致で承認可決されました。

総会後の講演会には昭和四十七年農業学科卒業の北次良造氏を講師に迎え「人生のターニングポイント」と題して講演を賜りました。

北次良造氏は「有限会社北次農場」を設立・運営され、水稲五五〇畝、大豆三五畝・大麦二〇畝と大規模な経営耕地面積を有し、水稲作経営

事務局だより

《本部》

【会計監査】

六月三日(土)翠星高校

【理事会・総会】

六月十日(土)グランドホテル白山

《支部総会》

【金沢支部総会】

七月一日(日)ホテル金沢

稲葉校長 寺田教諭出席

【関西支部総会】

十月二十一日(土)ホテルグランヴィア

稲葉校長 丹保講師出席

【東海支部】

五月二十七日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋

稲葉校長 寺田教諭出席

【関東支部総会】

十一月十一日(土)

稲葉校長 長瀬実習教諭出席



専業にて営農されています。北次氏はこれまでを振り返り、水稲と椎茸栽培の複合経営にて就農し、政府の施策や近隣農家からの理解が後押しとなり、今日の経営耕地拡大にこぎ着けられたと、熱心なお話を頂きました。

その後の懇親会では金沢市中山間地域の活性化を目的としたNPO法人の運営を始めた、昭和五十年農業土木学科卒業の木谷博一さんのお話を頂き、盛会のうちには終了となりました。

来年も元気に「六星」の旗の下で会いましょうと約束し、散会いたしました。